

コメディリリック第1回「へ夕に経た」

「親父の葬式に」

登場人物

高木 ペイリー・チャイルド

吏子 テオ・ポ―

※二人、板付き

【L・明転】

高木 「それで、さ、親父の葬式に一緒に出て参列してほしいと思つてて…」

「…うん」

吏子 「吏子、大丈夫？」

高木 「いや…うん…」

高木 「順番がおかしくてごめん。ほんとは生きてる内にしっかり紹介したかったんだけど…せめて親父の体があるうちに顔ぐらい見て欲しいと思つて」

吏子 「あのさ…私たち、今日初めてティンダーで会つたんだよ？」

「そうだね」

高木 「おかしいよね？普通さ、ティンダーで初めて会つた女をそのまま父親の葬式に連れてこうとする？」

高木 「先走り過ぎたかな？」

吏子 「先走り過ぎてるよ。すごい遠くにいるよ」

高木 「いやだ？」

吏子 「いやだ、とかじゃなくて。気持ちとか色々準備できてない。喪服も持つてないし」

高木 「喪服なら死んだ母さんのやつが」

吏子 「あなたティンダーで初めて会つた女に死んだお母さんの喪服着せようとしてんの？」

「変かな？」

高木 「変だよ。まあね、君まだ大学生だからさ…いやそういう問題じゃない気もするけど」

高木 「吏子のティンダーのプロフィール初めて見た時からこういう人に親父の葬式に出てほしいって」

吏子 「フェス行きたいくつて書いてるだけじゃん。あなた葬式のことフェスだと思つてるの？」

高木 「冠婚葬祭が好きなんですよ？」

吏子 「違う違う。私が好きなのは音楽フェスね。フジロックとかそういうの」

高木 「死者を追悼するって意味じゃないの？」

吏子

「あーそういう時もあるな。ちつ紛らわしいな。とにかくティンダーで初めて会った女をお父様の葬式に連れてくのは間違ってるから」

高木

「詳しく教えてくれない？」

吏子

「てか流暢にこんな話してて大丈夫？

高木

色々大変なんじゃないの？」

高木

「兄貴や親戚から沢山連絡来てるけど：今はこっちの方が大事」

吏子

「今すぐ返してください」

高木

「気になってこんなんじゃないやお焼香上げられないから：頼むよ」

吏子

「そんな、大した話じゃないけど、ティンダーってき、もつと軽めになんとなく出会いを求めるそういうアプリだから、お酒飲むとかデートするとかならいいけど、父親の葬式に誘う人はいないの」

高木

「他の人はどういうこと言うの？」

吏子

「いや、普通にご飯行きませんか？とか映画観ましょうとか、馬鹿な男はラブホ行こう！とかすぐ送ってくるけど、あなたに比べたらよほど正しい気がします」

「そうか：そういう風に使うべきだったんだ：何やってんだよ俺は：」

吏子

「そんな深刻に悔やむ必要もないけど」

高木

「親父の死に目に間に合わなかったことより悔しい：」

吏子

「親父の死に目と比べちゃダメ」

高木

「あいつらにも教えとこ」

吏子

「あいつら？」

高木

「俺の地元の友達。みんな東京に出てきたばっかで」

吏子

「ああ、そう。優しいね」

高木

「えーと：親父が死んだ。あと、ティンダーで出会った女の子は親父の葬式に誘うよりもラブホに誘う方が正しいらしい」

「SEE・LINE」

吏子

「友達心配するだろうね」

高木

「ふふ」

吏子

「どうしたの？」

高木

「ティンダーとマンボーって響き似てんなって」

吏子

「馬鹿しかいねえなあ」

高木

「ねえ？一つ聞いていい？吏子ちゃんってき、親父の葬式には行ってくれないけ

---

ど、ラブホテルなら行ってくれるってこと？

吏子 「行きましようか！？お葬式！」

高木 「え、なんで？」

吏子 「なんか今、悔しくなっちゃって！そんな情けない女にされるくらいなら、行ったろかな思っって！」

高木 「行こう行こう。帰りにレゴランド寄ろう！」

吏子 「あんた親父が死んですぐレゴランド行けるの？てかレゴランドって」

高木 「ダメかな？」

吏子 「不謹慎じゃない？身内のあんたがそれでいいならいいけど」

高木 「ただ葬式に行くだけになったら吏子がつまらないかなーって」

吏子 「あ：あ、なるほど。そういう気づかいが。ありがとう。じゃあやっぱり私に行かない。しっかりお父様にお別れの挨拶しておいで。その後にもまた会おう？ね？」

高木 「うん。わかった」

吏子 「ほらさっさと準備。連絡も返して」

高木 「うん」

---

※高木、はける

吏子 「はー可愛い。ああいうのいいわ。あたしはああいうのがいいと思う女だわ」

※高木、登場

高木 「ごめん！やっぱ先にラブホテル行きたくて」

吏子 「男の子って」

【し・暗転】